



DIR INFORMATION

同志社ローム記念館 プロジェクト・レポート

DIR

[ディー・アール]

新しい生活様式と「プロジェクト」

2020年度 プロジェクト紹介
2019年度 最終成果報告会・プロジェクト活動レポート
OP訪問 スペシャル企画の裏側

2021年度 同志社ローム記念館プロジェクト (第18期)

「プロジェクト」で何をを目指すのか？
「プロジェクト」を通して、何を考え、何を学ぶのか？

新しい生活様式における「プロジェクト」を再構築
すべく準備を進めています。
次のプロジェクトは、そのベースづくりから。
新年度のプロジェクトに関する情報は、3月頃
Webサイトなどでお知らせします。

YouTubeチャンネル開設！
「同志社ローム記念館」のYouTubeチャンネルを開
設しました。
プロジェクト情報や、プロジェクトで制作したコンテ
ンツを発信していきます。
Webサイトとあわせてぜひご覧ください！



編集後記

4月に着任した私。出勤時に敷地内の芝生でキツネを目撃して、思わずスマホで激写！家族に「北海道み
たい！」と驚かれるような学研都市キャンパスから、学生で賑わう京田辺キャンパスでの勤務になった…
はずだった。まさか、こんなにも静まり返った構内で半年間過ごすことになるとは思ってもみなかった。
秋学期からは、事務室を訪れる学生が少しずつ増え、画面越しに抱いていた印象との違いに驚いたり、ミュートがかかっている生
の笑い声に嬉しくなったり…マスク越しで、距離を取りながらの対応にはなっても、心の距離はいつだって「密」でいたい。
プロジェクトを伝える広報誌でも、メンバーのイキイキとした表情、輝く笑顔…これからたくさんのステキなシーンを切り取ってお
届けできるように、現状を受け入れ、楽しみながら、前を向いて進んでいこうと思う。
(同志社ローム記念館プロジェクトコーディネーター 中村 絵理)

表紙の人

DERCプロジェクト (Doshisha aErospace Rocket & Cansat project)

- | | |
|-------------------------------------|---------------------------------------|
| 甲斐勇希さん
同志社大学 工学部
エネルギー機械工学科3年 | 田儀 樹さん
同志社大学 工学部
情報システムデザイン学科2年 |
| えこまな@京田辺 | |
| 藤井紀帆さん
同志社大学 生命医科学部
医情報学科3年 | 九富 佑紀乃さん
同志社大学 文化情報学部
文化情報学科3年 |
| 中嶋彩乃さん
同志社大学 工学部
機能分子・生命化学科2年 | 藤谷真子さん
同志社大学 生命医科学部
医情報学科2年 |

元気に活動していることを伝えようと表紙制作に参加。
日々工夫を重ねながら活動している2020年度プロジェクトメンバーのみなさん。

同志社ローム記念館 プロジェクト・サポート募金のお願い

プロジェクト活動へのご支援をよろしくお願
いいたします。
こちらから
お申し込いただけます。



ROHM SEMICONDUCTOR 同志社ローム記念館とは…

京都に本社を置く半導体メーカー、ローム株式会社の寄付をもとに
2003年に設立されました。
学生・生徒が集う開放的な学びの空間があり、1年を通して様々な
課題に取り組む、「同志社ローム記念館プロジェクト」の拠点としても
活用される情報教育施設です。



新しい生活様式と「プロジェクト」



19.9.5「えこまな@京田辺」森での授業

19.10.31~11.2「多々羅製作所」けいはんな情報通信フェア出展

19.10.31~11.2「Prontiat VR」けいはんな情報通信フェア出展

19.11.21「えこまな@京田辺」普賢寺小学校4年生を迎えてフィールドワーク

19.9.18「Oh! Do IT!」オムロン京阪奈イノベーションセンター訪問

19.10.16「企画書作成講座」開催

19.11.16「Oh! Do IT!」オムロン株式会社「おもしろまつり」出展

19.11.17「えこまな@京田辺」環境フェスタinKYOTANABEブース

19.9.21「多々羅製作所」ルームオープンハックチャレンジ最終審査会

19.10.16「企画書作成講座」開催

19.11.2~11.3全プロジェクトが出展 同志社ローバー祭

19.12.7~8「きづのもり」イベントでのPR活動

「プロジェクト」は毎年、新しい。
先輩たちから受け継ぐ伝統があるチームもあるが、
新しい年度に向けて、目標も、内容も、メンバーも、
心新たにスタートし、活動を展開する。

プロジェクトルームで仲間とともに活動しながら、
憧れの先輩のPCをそっと覗き込んで作業のスピードに驚いたり、
隣のルームから聞こえる激しい議論に耳をそばだてたり、
夜更けに鳴ったおなかの虫の音に笑い転げたり…

今は、そんなことはないけれど、
自室でひとり、これまでにないほど考えた。
資料のつくり方も言葉選びも丁寧になった。
仲間と笑い合う時間を大切にできるようになった。

だれも答えを持たないこの混沌とした時代の渦の中。
これからのニューノーマルを模索する。



19.11.30「Prontiat VR」ISCAでブース発表、入選作として表彰

20.2.8~9「アトリエフレームワークス」イオンモールKYOTOでの展示

20.2.29 最終成果報告を終えたメンバーへのインタビューも生配信

「きづのもり」木津川市内を巡ってパン屋、caféへ取材

2019年度で活動を終えるスタジオZero

オンラインでプロジェクトの進捗状況の報告や意見交換

2020年度メンバー募集ムービー制作

オンラインでプロジェクトの進捗状況の報告や意見交換

ソーシャルディスタンスを保持しての動画撮影

20.2.21「Oh! Do IT!」オムロン株式会社での活動報告

20.2.21「Oh! Do IT!」オムロン株式会社での活動報告



20.4.1 幻となった2020年度プロジェクトメンバー募集号



「DERCプロジェクト」同志社ローバー祭にあわせてWebサイト公開



20.10.15 オンラインの「令和動画職人プロジェクト」スタート



「えこまな@京田辺」「クイズエコマナーズ」動画公開



計画的に少人数での活動を実施



ごあいさつ
同志社ルーム記念館プロジェクト運営委員会委員長
波多野 賢治 (同志社大学 文化情報学部教授)

このたび、竹廣良司先生から同志社ルーム記念館プロジェクト運営委員長を引き継がせていただくことになりました。2012年度からルーム記念館プロジェクトに関わらせていただいておりますが、昨年度末から続く新型コロナウイルス感染症の影響で、今年度はこれまでにない環境下でのスタートとなり、新たなフェーズを迎えて、身の引き締まる思いであります。現在も、計画していた内容でのプロジェクト活動が行えないという状況が続いています。その中でどのような活動を行い、それが自分自身の成長にどう繋がっていくのかを考えていくことこそが、コロナ禍におけるプロジェクトの新しい活動形式ではないかと思えます。今後、本プロジェクトに関わる学生・生徒諸君や運営に関わっている法人内教職員の皆さんと共に、さまざまな想いを共有しながら「今だからこそ何ができるか?」を常に考えていきたいと思っております。ルーム株式会社を始めとする企業や同志社校友会の皆さま、地域の皆さまにも引き続きご協力やお力添えを賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

2020年度 プロジェクト紹介

プロジェクトの採択が決定したものの、新型コロナウイルスの感染拡大が止まらず、活動も休止、4月には緊急事態宣言が発出される事態となった。

6月、新メンバー募集を含め、実施体制も整わない中、すべての活動をオンラインのみとし、今できることは何かを改めて考え、作成した活動計画書をもとに活動が再始動した。

本年度掲げた目標、その達成のための活動は次年度に持ち越されることとなったが、プロジェクトを取り巻く環境のあまりの変化に、なかなか今後の見通しが立たず、やむなく活動を中止することになったプロジェクトもあった。

えこまな@京田辺

参加団体 ▶ 京田辺市・京田辺市教育委員会
プロジェクト責任者 ▶ 岸 基史 (同志社大学 経済学部准教授)



京田辺市民(主に親子)を対象に、環境について学べるイベントを開催、環境意識向上のための教育プログラムの提供を目指すプロジェクト。

本年度は、オンラインでの活動のしくみづくりも含めて、改めて自分達の活動のあり方を見直すところからのスタート。来年度のプロジェクト実施に向け、地球環境や自然など、関連テーマについてメンバーの理解を深め、次の展開に向けて準備を進めている。



DERCプロジェクト

(Doshisha aErospace Rocket & Cansat project)

プロジェクト責任者 ▶ 平田 勝哉 (同志社大学 理工学部教授)



「同志社のロケットを、小型人工衛星を、宇宙へ」を掲げ、高度500メートルに到達できるハイブリットロケットの作成と、CanSatカムバックコンペによる0メートルゴールの達成を目指すプロジェクト。ロケット部門では、CADソフトの習熟や機体の構造についての勉強、CanSat(模擬小型人工衛星)部門では、プログラミングや機械学習、制御等について学ぶオンラインゼミを展開、新入生も迎え、次年度へ期待をつなげる。



Pick up!

令和動画職人プロジェクト こんな時でも！同志社ローム記念館をネタにせよ。

ファシリテーター 秋山 理二郎氏 (株式会社 第3表現 代表取締役)

動画制作は、いまや社会人の必須スキルとなりつつある。約2ヶ月の短期プロジェクトも、オンライン活動となり、館内での撮影はできなくなったものの、日頃今出川キャンパスに通う文系学部のメンバーも参加、それぞれの感性を活かした動画を制作した。

昨年度撮りためられた写真や動画を使って、同志社ローム記念館プロジェクトの魅力を発信すべく、メンバーがそれぞれに工夫を凝らした動画に仕上げた。

完成作品は、館内「劇場空間」のスクリーンで放映されている。



Pick up!

同志社クローバー祭2020

例年、多くの市民・学生が参加して盛大に開催されるイベントも今年はオンラインでの開催となった。その参加に向けた取り組みのひとつの「プロジェクト」、祭と一緒に盛り上げるべく、Webサイトや動画の制作に取り組んだ。

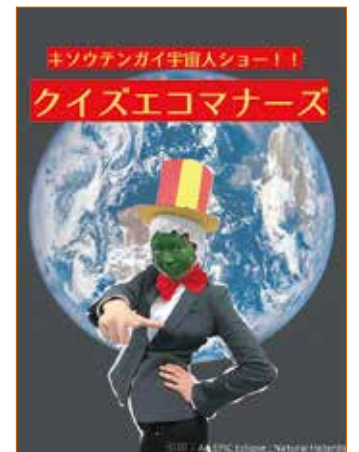


▲Webサイトの特別企画として「あなたの願いを書いて打ち上げます！」と、DERCの初ロケットに刻みたい願いを募集



◀学生達のがんばりに、事務局スタッフがうずうずして思わず制作、同志社ローム記念館プロジェクトプロモーションムービー

▼子ども達に自然について考えてほしい！
「えこまな@京田辺」Presents
『キソウテンガイ宇宙人ショー!!
クイズエコマナーズ』





2019年度 最終成果報告会 2020年2月29日(土)

関係者の安全を確保すべく、会場も変更し、規模を縮小して開催された最終成果報告会。

新型コロナウイルス感染が拡大、日々状況が変わる中、前日の夜、ぎりぎりまで検討が重ねられての開催決定となった。想定していた舞台とは違ったが、各プロジェクトが1年間の活動と成果を全力でプレゼンテーション、委員による審査を経て授賞プロジェクトが選ばれた。



例年、報告会同日に華々しく開催される「同志社ローム記念館大賞発表会」も中止が決定した。メンバーが互いに1年間の頑張りをたたえ合う場であり、本年度で活動の終了を決めたスタジオZeroが企画・運営を担う最後のイベントであったが、前々日リハーサル中のメンバーにその中止が告げられた。最後まで、プロジェクトのみんなのために、と、機材担当のメンバーを中心に奮起、当日会場に来ることができなくなったメンバーや関係企業・団体のみなさん、OP (Old Project-member) 達にも報告会を届けるべく、急遽、関係者限定で生配信を行った。



同志社ローム記念館大賞

きづのもり

プロジェクトリーダー
井森 萌子 (同志社大学 心理学部4年)

参加団体
木津川市 マチオモイ部

プロジェクト責任者
飛龍 志津子 (同志社大学 生命医科学部教授)

メンバー数
12名



授賞理由

これまでの活動により得た経験と自信をもとに、学生目線での情報発信に取り組みていたこと、早い段階でパン屋とカフェにフォーカスできたことにより、対象について精緻な分析が行えた点が高く評価できる。事後的な検証が十分でないことは課題として残るものの、木津川市における若者の集客には大いに貢献できたことと期待できる。「飛び込み営業」を繰り返すなど機動性にも富み、若者ならではの感性でアピールすることによって、地域のイメージに対し、ステレオタイプからの脱却を遂げられた点や、取り組み経験がメンバーのスキルアップにも繋がっている点など、優れた成果を残せたものと判断できる。

同志社ローム記念館大賞 優秀賞

アトリエフレームワークス

プロジェクトリーダー
大隅 博文 (同志社大学 理工学部3年)

プロジェクト責任者
有賀 妙子 (同志社女子大学 学芸学部教授)

メンバー数
13名



授賞理由

メンバーのスキルの向上や来場者の満足度などの質的な評価が不十分に見える点、アートで何を伝えたいかが不明確な点なども見受けられるが、着実に成果を上げた点は素晴らしい。昨年度の経験もいかしながら、より活発に活動を展開、インタラクティブアートを積極的に外部へ発信しており、マスコミにも取り上げられた点は評価できる。また、勉強会でのプログラム教育の工夫もたいへん良かった。

学生相互評価賞『僕らの同志社ローム記念館大賞』

きづのもり

2019年度 プロジェクト活動レポート



きづのもり 【参加団体】木津川市 マチオモイ部



木津川市の魅力を発掘、発信すべく完成させたのは、市内に55店舗あるパン屋・café全店舗を訪れ、独自の視点で検証、厳選した15店舗を紹介する冊子「充電させてもらいました。」。イラスト地図連動アプリ「ambula map」への掲載も実現、新聞などでも取り上げられた。メンバーで知恵を出し合い徹底的に議論して考案した店舗取材用の「検証視点表」によって、デザインやキャプション等の検討でも目標をブレさせることなく、議論を深く掘り下げることができた。連携プロジェクトとして、市役所の皆さんと議論したからこそ明確になった「若者ならではの」発想を武器に、読み物としても面白い冊子に仕上がった。



アトリエフレームワークス



インタラクティブアートを観る人を増やすだけでなく、創ることの楽しさも伝えようと、8回の展示会、2回の勉強会に取り組んだ。展示会開催のために京田辺市の補助金を活用、より多くの人に体験してもらえるよう、30箇所を超える施設とやりとりをしながら展示会場を選定、広報活動も積極的に行った。動きに合わせて近未来のまわりの街の様子が変わる作品「サイバシティ」を中心に春から改善を重ね、総体験者数は2,000人を超えるまでになった。NHK Eテレ「沼にハマってきいてみた」へも出演、作品づくりの苦労やおもしろさを発信した。



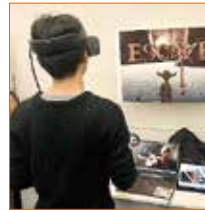
えこまな@京田辺 【参加団体】京田辺市・京田辺市教育委員会



同志社国際学院初等部、京田辺市立普賢寺小学校で環境をテーマとした授業を展開。ゲーム形式の教材や、森の中でフィールドワークを取り入れて自然とのふれあいの機会を提供するなど、自然環境を身近なものとして捉えてもらい、森の中の生き物同士のつながりや、外来種など、自然環境が抱える問題について子ども達が自ら考え、話しあえるよう工夫した。京田辺市のイベントにも参加し、幅広い年代の人との関わりの中で、市民の環境意識向上に向けたプログラム、環境教育モデル開発に向けて経験を積んだ。



Prontiat VR



VR作品を開発、ユーザテストを重ねながらVRにおけるユーザエクスペリエンス(UX)の研究を進めた。Webサイトで体験できるコンテンツ4作品を公開、他大学の学生団体との連携で開催した展示イベント「cropVR」でも出展した。他大学との技術交流や、各種イベントへの出展、体験会の実施など多くのフィードバックを得て開発した「ESCAPE」は、ISCA (INTERNATIONAL STUDENTS CREATIVE AWARD) デジタルコンテンツ部門で入選作に選ばれた。



多々羅製作所 【参加企業】ローム株式会社



悩みに悩み、開発した「パーソナルヘルスケアロボット Tatalan」。機械学習も取り入れたロボットの挙動制御、筐体や回路の設計など、多くの要素が関わり合って構成されているデバイス。開発途中で発生した問題の原因を特定し、解決するのはとても大変だった。失敗を重ねながらも、屈することなく自分たちなりの方法で問題を解決して完成に漕ぎつけたことは何よりの成果。「不屈の精神(Tatara Spirit)をもってアイデアを実現したことを誇りに思っている」、と胸を張る。



**アジアの国々とメディアコンテンツを創る
コラボレーションシステムの開発 (KJ3)**



韓国や台湾など、文化の違う他国の大学や、企業・アーティストとの連携により創りあげるライブコンテンツ。さまざまな人との関わりの中で、どうすればうまくいくのか、考え続けた1年、大学生とアーティストとのコラボ企画や、台湾の大学からのライブ中継など、企画段階から中心になってライブ演出を考案、学生同士、国境を越えた一体感をうみだした。



WAPLI わっぷる



AIを活用し、学生生活をより豊かにするアプリを開発すべくスタートしたプロジェクト。キャンパスで利用することを想定した自分達のアプリ企画にも活かすべく、同志社クローバー祭で便利に使えるものをつくろうと奮闘した。技術的な課題以外にも、アプリの完成形、具体的な実装内容をどう決めるのか、チームやメンバーでどう役割分担、統合するか、想像以上に考えるべきことは多く、プロジェクトを通して多くの経験、学びを得た。



Oh! Do IT! <短期プロジェクト> 【活動期間】6～2月 【連携企業】オムロン株式会社



社会課題に向き合い、その解決方法を考える。健康をテーマにチームで開発を決めた企画は、無意識のうちにデータを測定し、遠くに住む家族へ健康状態を知らせるトイレのシステムだ。必要な技術、作業の洗い出しからセンサ等の調達、実装まで、苦労しながらも、なんと自分達のアイデアを伝えるプロタイプをイベントで出展、オムロンの研究所の皆さんからもたくさんのアドバイス、フィードバックを頂いた。



スタジオZero



プロジェクトの成功をサポートするチームとして、7年間、活動をつないできた。小さなプロジェクトが連なるような日々の活動の中で、高みを目指し、自分達のスキルアップはかかってきた。自分達に何ができるか、どうしていきたいのか、「サポート」とはどうあるべきか、団体としての意義を見つめ直して決めた活動終了。これまでの活動で得た知見をまとめ、集大成の最終成果報告会に臨んだ。

OP (Old Project-member) 訪問<特別編>

スペシャル企画の裏側



「教えて！ OPさん！ コロナ禍で、いまどんな働き方してますか？」

社会で活躍するプロジェクト卒業生(OP)に呼びかけ、ぜひ！と名乗りを上げてくれた15人の卒業生からのメッセージを、SNS公式アカウントを通じて(現在は、同志社ローム記念館Webサイトに掲載中)毎週ひとりずつお届けする。デザインや編集を含め、「中の人」としてこの企画を進めたのもOP、現在事務室のスタッフとして勤務している後藤百合絵さん。



静かなキャンパス、メンバーたちの熱を感じることもないプロジェクトルーム、突然の在宅勤務…はじめて尽くしの生活。毎日、不安な思いを抱えて寄せられる大学への問合せの電話を受ける日々の中で、考えさせられることも多かった。

まだ会うことのできない1年生のみなさんへ、議論もままならない歯がゆい日々を過ごしているプロジェクトメンバーへ、先輩として、少しでも力になれないか、元気を与えられないか…プロジェクトのことをまた少し別の角度から知ってもらえることができれば、と苦心した。

毎週金曜日、さまざまな分野で活躍するOPたちからのメッセージを近況とあわせて配信。社会で活躍し続けるOPのみなさんの活躍が、プロジェクトの力にもなっている。

反響は、慣れないリモートワークで疲れ、気分が滅入っていた、という卒業生からも。「みんな頑張っているんだと思うと元気が出た!」「後輩たちの力になれることがあれば何でも言ってください!」とうれしいメッセージが寄せられた。



OPのみなさんからのメッセージは、下記からご覧ください。



Event Report

イベント報告 2019年9月～2020年11月



2019年度同志社ローム記念館プロジェクト中間報告会
9月28日(土)
主催：同志社ローム記念館プロジェクト運営委員会



同志社クローバー祭2019
スマブラ王決定戦 in 同志社
11月3日(日)
主催：同志社クローバー祭実行スタッフ



日韓フレンドシップライブⅧ
K-POP collaboration Live
TARGET
11月6日(水)
主催：同志社ローム記念館プロジェクト「アジアの国々とメディアコンテンツを創るコラボレーションシステムの開発(KJ3)」



TED×DoshishaU PR event
11月15日(金)
主催：TED×DoshishaU 実行委員会

● イベント

[2019年度]
ALL DOSHISHA 共修プログラム 留学セミナー
10月1日(火)～3日(木)
主催：同志社大学 理工学部・理工学研究科

TED×DoshishaU PR event
10月10日(木)
主催：TED×DoshishaU 実行委員会

Doshisha Spirit Week 2019 秋「同志社大学応援団演舞」
10月28日(月)
主催：同志社大学 キリスト教文化センター

TED-Ed Dokoku
10月31日(木)
主催：同志社国際高等学校

2020年度 同志社ローム記念館プロジェクト エントリー説明会・相談会
12月11日(水)・12月13日(金)
主催：同志社ローム記念館プロジェクト運営委員会

京田辺市創業支援事業計画 創業セミナー
12月11日(水)
主催：京田辺市役所産業振興課

2020年度開講 全学共通教養教育科目説明会
1月15日(水)
主催：同志社大学 全学共通教養教育センター

TED-Ed Dokoku
2月18日(火)
主催：同志社国際高等学校

新型コロナウイルス感染拡大により、2/27～秋学期開始までの期間に予定されていたイベントは、全て中止となりました。

[2020年度]
2020年度 ハリス理化学研究所研究発表会(オンライン開催)
11月26日(木)
主催：同志社大学 ハリス理化学研究所事務室

● 展示

[2019年度]
インタラクティブアート「サイバーシティ」
1月7日(火)～11日(土)
主催：同志社ローム記念館プロジェクト「アトリエフレームワークス」

Pick up!

ロームフェア2019 2019年11月12日(火)・13日(水)

今回のフェアは、G階オープンテラスエリアでの展示に加え、「技術セミナー」、「ハンズオン」も開催。ハンズオンでは、加速度センサ等8つの高性能センサを搭載した評価キットに実際に触れつつ、学生生活とセンサをテーマにしたアイデアソンも行われた。2日間を通して、SIC(シリコンカーバイド)や車載デバイスなどローム株式会社の最先端技術に触れる貴重な機会となった。



※予定されていたロームフェア2020は中止となりました。